



左上：大阪市立大学生によるがれきの撤去 右上・左下：いわて GINGA-NET プロジェクトの活動（お茶っこサロン） 右下：被災直後の福島県立医科大学

東日本大震災 復興支援学生ボランティア 車座シンポジウム

～公立大学が連携した取組み報告を中心に～

日時：平成 23 年 10 月 2 日(日)13:30 ～ 16:30

場所：東京グランドホテル・芙蓉

TEL 03-3456-2222

芝公園 A-1 出口徒歩 2 分、浜松町南口徒歩 10 分、大門駅 A-3 出口徒歩 8 分

定員：70 名（参加費無料、定員になり次第申し込みを締め切ります）

申込：お名前・所属をメールにてご連絡ください jimu@kodaikyo.jp

主催：公立大学協会（事務局 TEL 03-3501-3336 FAX 03-3501-3337 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9F）



開催趣旨：

被災地では仮設住宅での暮らしが始まり、当初とは異なる支援が長期的に必要なってきています。そんな状況の中、週末や夏季休暇の時間を使い、少しでも被災者の力になりたいという学生が数多く手を挙げるなかで、大学間や自治体、NPO 等との連携で、地元学生のみならず遠隔地の学生も被災地に足を運び、様々な支援活動が実践されてきました。

被災地でのボランティアの活動を通して学生たちが何を学んだのか、またその学びを大学はどのように考え、大学教育の未来を展望するのか。ボランティア活動を体験した学生達を囲んで語り合います。

プログラム：

1 開会挨拶 公立大学協会 奥野武俊 会長（大阪府立大学長）

2 状況報告 岩手県立大学 佐々木民夫 副学長

3 公立大学生による活動報告と問題提起（内容は変更になる場合があります）

①「震災直後の医大生としてのボランティア活動」（福島県立医科大学）

②「自治体等連携・大学連携による支援」（宮城大学／兵庫県立大学／大阪市立大学）

③「いわて GINGA-NET プロジェクトの取組み — 多くの大学の連携」

（岩手県立大学／静岡県立大学／愛知県立大学／大阪府立大学）

4 車座ディスカッション

モデレータ：大阪府立大学 竹内正吉 副学長・学生センター長

パネリスト：岩手県立大学 山本克彦 准教授・災害復興支援副センター長

愛知県立大学 藤田博仁 准教授

文部科学省 石橋 晶 大学振興課 課長補佐

学生発表者の皆さん

○連携の取組み例 1

いわて GINGA-NET プロジェクト



活動期間：7月27日（水）～9月27日（火）の9週間

参加規模：1週間単位で毎週 100～150名程度。

合計 1,300名程度を予定。

活動地域：大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町ほか

活動内容：仮設住宅でのサロン活動、子ども向けの学習支援、遊び支援、お祭り等地域行事の開催支援等

実施主体：いわて GINGA-NET プロジェクト実行委員会

・岩手県立大学学生ボランティアセンター

【プログラム開発、マッチング】

・ユースビジョン、さくらネット

【大学等へのよびかけ、資金調達】

支援：公立大学協会

後援：文部科学省（申請中）

参加公立大学：青森県立保健大学、静岡県立大学、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、三重県立看護大学、大阪府立大学、大阪市立大学、神戸市看護大学、島根県立大学、山口県立大学
以上、大学単位での参加。他に大学単位・個人単位で多くの国公私立大から参加。

○連携の取組み例 2

宮城大学・兵庫県立大学連携ボランティア派遣



派遣日程：第1次 5月20日～23日

第2次 7月1日～4日

第3次 9月12日～15日

派遣被災地：宮城県石巻市内（1次、2次）
南三陸町（3次）

活動内容：がれき撤去、側溝の泥出し（1次、2次）

仮設住宅傾聴ボランティア（3次）

参加人数：1次～3次 計 120名程度を予定

（宮城大学・兵庫県立大学の学生による作業風景）

